PE投資は選別局面に　AI創薬や量子コンピューターなど注目
ブラックロックのプライベート・エクイティ・パートナーズ事業グローバル共同責任者　ジョン・シーグ氏
――ブラックロックのプライベート・エクイティ（ＰＥ）投資の特徴を教えてください。

「当社は未上場企業への投資とＰＥファンドへの投資の両方を行っている。ＰＥ投資の運用残高は約340億ドル（約5兆5000億円）と世界トップ５位に入る。約3000人の投資専門家たちからセクターや国を横断した業界の知見を引き出せるのが強みだ」

「日本の未上場企業やＰＥファンドにも投資している。企業統治改革や資本効率向上への圧力の高まりを受け、非中核事業の売却や事業承継などへの取り組みが増えている。企業が一部の事業を売却するカーブアウトや上場企業の非上場化に注目している。分野としては自動化などのテクノロジーやヘルスケアが面白い」
――中東情勢の悪化など足元の環境がＰＥ市場に与える影響をどのように見ていますか。

「ＰＥは選別的な段階に入っている。インフレは根強く地政学リスクもくすぶる。これまで長期間にわたりＰＥを支えてきた超低金利環境への回帰は予想されていない。低い借り入れコストに頼ってきたファンドもあると思われるが、金利上昇局面では競争のハードルが上がる。マネジャー間のパフォーマンスのばらつきは一段と拡大するだろう」
――どのような分野に注目していますか。

「企業は非上場状態を維持する期間が長くなっている。（英調査会社の）プレキンによると企業の新規株式公開（ＩＰＯ）時の平均設立年数は現在、約12年だ。10年ほど前までは６～７年だった。かつてならＩＰＯしていたような大規模な非上場企業にベンチャーキャピタル（ＶＣ）などが資金を提供するようになった。上場企業としてのプレッシャーにさらされることなくグローバルに事業を拡大できるようになっている」
「当社は５つの構造的な変化に焦点を当てている。ＡＩとデジタルディスラプション（創造的破壊）、人口動態の分岐、低炭素への移行、地政学的分断とグローバルな供給網の再編、金融の未来だ。これらは経済を再構築し、今後数十年にわたり市場も再構築すると考えている。こうした機会を捉えるのにＰＥは非常に有利だ。経営ノウハウを持ち、市場のサイクルに関わらず投資できるためだ」
「今後数年間で新たな技術が次々と登場するだろう。AI関連ではエコシステムそのものが進化している。例えばヘルスケアは創薬にAIを活用しさらなる機会が生まれている。AIとロボットや自動運転などが融合するフィジカルAIも興味深い展開になるだろう。最先端の分野では量子コンピューティングの台頭も期待される」
――一部の個人向けファンドでは解約を制限する動きがあります。

「特定のファンドが抱える課題であり、プライベート市場全体の方向性を示すものとは考えていない」
「プライベート資産は最も急速に成長している分野だ。プレキンによると2030年に30兆ドルになると予想される。今後、より多くの投資家が上場株50%、債券30%、オルタナティブ20%のポートフォリオ構築を目指すとみられる」
「個人投資家では富裕層や超富裕層の一部がＰＥ投資に乗り出しているが、全く投資していない人も少なくない。プレキンなどによると、22年に４兆ドルだった個人富裕層のオルタナティブ（代替）投資額は13兆ドルに膨らむと予想される。個人向け市場は大きな成長余地があり、実際に拡大している」

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.

2026年7月30日　日経ヴェリタス
許諾番号NK004860　日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。